

# カンボジア視察報告

外山紀子<sup>1</sup>

## 1. 視察者と視察日程

視察者：外山紀子

視察日程：

10月11日（土曜日）

- ・日本語補習校で日本人母親とカンボジア人母親からヒアリング
- ・ユネスコ職員からヒアリング
- ・JICAのシニア・ボランティア（SV）からヒアリング

10月12日（日曜日）

- ・JLMM（日本カトリック信徒宣教会）カンボジア事務所訪問・ヒアリング
- ・ストウンミエンチャイゴミ捨て場視察
- ・Child Nutrition Center Orphanage（政府系孤児院）視察
- ・孤児院副院長からヒアリング

10月13日（月曜日）

- ・ストウンミエンチャイ幼稚園視察
- ・トゥールコック幼稚園視察
- ・ミタピアップ幼稚園視察（JICA海外青年協力隊）
- ・教育省教員養成局にて養成局局長と面談
- ・3月8日幼稚園視察
- ・SVA（シャンティ国際ボランティア会）事務所訪問
- ・幼稚園教諭養成所訪問
- ・幼稚園教諭養成所附属幼稚園視察
- ・JICAシニアボランティアからヒアリング
- ・JICA青年海外協力隊隊員からヒアリング
- ・ポーチェントン小学校付設幼稚園視察

10月14日（火曜日）

- ・CYK（若い難民を考える会）支援プレイタトゥ保育所視察（園長・保護者2名からヒアリング）
- ・CYK支援バンキアン保育所視察（園長からヒアリング）
- ・CYK支援チェンメン保育所視察（園長からヒアリング）

- ・CYK支援トロピエンタヌン保育所視察（園長からヒアリング）
- ・カンボジアNGOケマラ事務所訪問
- ・ケマラ2保育所視察（プノンペン市ルセイケオ地区）
- ・CYK事務所訪問

## 2. 視察の概要

### (1) カリキュラム

カンボジアの公立幼稚園には、カリキュラム（案）があり、それにしたがって保育が行われている。

カリキュラム案については教員養成所に支援を行っている日本のNGO（SVA：シャンティ国際ボランティア会）が邦訳したものがある。教員養成局長によると、教育省はこのカリキュラムをミニмумスタンダード（最低基準）とし、これから改訂するという話である。

改訂の方向性としては、ECCEではなくてECCD、つまり全人的な発達を目指しているという話であった。そのためにJICAのシニアボランティアの方が派遣されたが、実際には改訂への動きはないようである。

### (2) 公立幼稚園の概要

公立幼稚園には貧しい家庭の子供が多い。施設の状態は園によって様々であるが、一般的には劣悪である。国から施設面での資金提供は行われていないようで、雨漏りやシロアリ被害の見られる幼稚園もあった。

最近では公立幼稚園とは別に私立の幼稚園が増えている。カンボジアでは英語ができるとよい職業につけるため、英語を教えている幼稚園もあり人気が集まっている。プノンペン市内にも英語を教えている幼稚園が増えているとのことであるが、今回の視察では訪問できなかった。テレビでも、幼稚園の先生が子どもに英語を教えているシーンを含む私立幼稚園のCMがさかんに流されていた。義務教育は全てクメール語であり、英語を話せる人はそれほど多くない。

1 津田塾大学学芸学部・お茶の水女子大学子ども発達教育研究センター客員研究員

### (3) 公立ストウンミエンチャイ幼稚園

#### ①園児の構成

1クラス25人ほど年齢は3～5才と決められているが、実際には1クラスに40人くらいの子どもがおり、なかには2歳児もいた。年齢については、「おしっこが自分でできるようになれば入れてもらえる」という話であった。制服はなく、上が白で下は紺という規定はあるが、白と紺以外の洋服の子どもも多い。貧しい家庭の子どもが多いため、保育料は徴収していない。

#### ②施設・教材

園長と若い先生がいる。園長は住み込みで、幼稚園が入っている建物全6部屋のうち2部屋を住居として使っている。他の2部屋はユネスコの寺子屋で識字教育と職業訓練所として使われているため、実質一部屋だけで保育を行っている。教室の後ろには先生が作ったペットボトルの工作が飾られているが、ペットボトルを切っただけなので子どもが実際に遊べるようなものではない。絵本がおいてあり、ペットボトルの工作の他には先生が研修か何かで作ったものが飾ってある。黒板には何も書いていなかった。

#### ③保育内容

登校するとまず、爪がきちんと切られているかどうかの検査が行われる。立ち歩いている子どもはいない。その後、ひとりひとり立たせて、「手をきれいにしましょう」という歌を歌う。先生が部屋から出て行って大人が誰もいなくなっても、子どもは誰も立ち上がったらずに、静かに座って待っている。次にご飯を敷き、その上に先生を中心として子どもを座らせ、「守ったウサギ」という全国統一の話聞かせる。午前中で終わるため昼食はとらない。二部制ではなく、午後まである幼稚園とない幼稚園がそれぞれあるということである。

### (4) ミタピアップ公立幼稚園

#### ①園児の構成

園児の年齢は3歳から6歳である。

#### ②施設・教材

滑り台や砂場もあり、かなり施設が整っていた。翌日に日本大使館主催の飴をつくる催しがあるとのことで、先生が一生懸命掃除をしていた。ストウミ

エンチャイに比べればきれいである。青年海外協力隊が入っているので、壁面製作など日本的な装飾がほどこされている。床が光っているのも、翌日のために念入りに掃除をしたためであった。しかし雨漏りはひどく、床も抜けていた。壁は土堀みたいなものだと思われる。壁には時間割が貼ってあった。

ミタピアップ公立幼稚園のちょうど前と横に私立の幼稚園があり、子どもが大勢いた。私立の幼稚園では英語教育を行なっているところが多く、公立幼稚園のなかにも、英語教育をアピールしている園もある。そうしないと子どもが集まらないということである。ミタピアップ幼稚園の園長先生も英語教育を行ないたいと言っていた。壁にapple程度の英単語は貼ってある。

### (5) 幼稚園教諭養成所附属幼稚園

#### ①園児の構成

シャンティ国際ボランティア会(SVA)という日本のNGOが支援していて、スラムの子どもを三割程度入れている。保育料は裕福な家庭からは徴収しているが、貧しい家庭からは徴収していない。

#### ②幼稚園の状態

日本がお金を出しているので、日本の旗が壁面に描いてある。手製の人形、絵本のコーナー(カンボジアで出版しているもの)、エプロンをかけるコーナーや手を洗うコーナーもあり、他の幼稚園に比べれば恵まれている。しかし、立派な園庭といっても砂場はごみだらけで使えず、タイヤのブランコはひもが切れていた。先生方が直したいということで、JICAのSVの方が綱を渡したが、自分で直そうとしない。そのため、いつまでもひもが切れた状態で放置されているという話だった。

#### ③保育内容

この幼稚園では午後も保育が行われていた。給食もあったが、視察に行ったのがお昼過ぎだったので、昼寝のあとのおやつ時間をみることができた。驚いたことに、おやつを食べ終わったばかりのところで、園庭に屋台が登場した。子どもが自分のお金で買ったり、先生が子どもを呼んで食べさせたりしている。朝、親が先生にお金を渡し、食べさせてくれと頼んでいるケースもあるようだ。

**(6) ポーチェントン小学校付設幼稚園**

公立の幼稚園で小学校に付設されている。夕方の視察だったため、幼稚園の子どもをみることはできなかったが、小学校では授業を行っていた。

**①園児の構成**

子どもは約40人で、小学校の付設幼稚園はみな同程度だということである。

**②施設・教材**

施設の状態は劣悪であり、柱は白アリ被害がひどかった。幼稚園のまわりはごみが散らばっている。小学校の建物はある程度整っているが、休み時間になると、アイスクリームやキャンディーの屋台がどこからともなく現れ、子どもは、それを買って食べ、そこら辺にゴミを捨てて部屋に戻るため、非常に汚い。

幼稚園では、日本で昔使っていたイスと机を使っている。遊具はまったくなく、保育室といっても土間のようなところであった。黒板をみるとどうやら読み書きをやっているようだった。ゲームの説明のようなものが書いてあった。壁にクメール語の「あいうえお」表が貼ってあった。

**(7) カンボジアにおける幼児教育カリキュラム**

保育時間は、カリキュラムでは午後までとあるが、多くの幼稚園が午前中で保育を終えている。暑いので昼は2時間くらい休み、かわりに朝が早くて、実質7時頃から保育を行っている。20分程度の長さの活動がびっしり入っており、カリキュラムは「ミニマムスタンダード」という割に非常に細かい。ベトナムの影響があるためか、できる子どもには、何かしらのご褒美をあげる、褒めてあげるといったことがカリキュラムに明記されている。

お絵かきの時間があるが、全員が絵を描くわけではなく代表の子どもが前に出て描く。紙が豊富ではないためかもしれないが、他の子どもは代表の子どもが描いているのを、ぼうっとして見ているだけである。体操もカリキュラムに含まれているが、先生方は伝統的な長いスカートを履いており、実際に体を動かしていない。実技の時間もあるが、実際には実技は取り入れられておらず、識字が中心となっている。

教育省は、1クラスあたりの子どもの数は25人程度が望ましいと言っているが、実際には30～40人がひとつの部屋に集まっている。とにかく子どもが密集して

いて、気持ち悪くて吐いたボランティアの方もいたそう。暑いところに子どもがたくさんいて、むせかえるようなところで保育を行なっているのが現状である。

**(8) 予算・施設など**

多くの幼稚園では保育料は徴収していないが、例外もある。

どこの幼稚園も保育者の給料は低い。国からの賃金はある程度あるが、最低限の額である。まわりに私立幼稚園がたくさん設立されたため、子どもが全くいなくなった幼稚園もあったが、保育者だけがいてお茶をのんでいる光景もみられた。

建物も劣悪な状況で、床が抜けそうだったり、シロアリの被害が大きかったり、雨漏りがしているところもある。お茶を飲んでいる間にも直せばいいと思うが、自分で直すようなことはしない。10年も援助を受けてきたために、何かをしてもらうことに慣れてしまっているのではないか。これも援助の弊害ではないかと考えられる。

男女による園児数の差はほとんどない。幼稚園レベルでは、男子の優遇はない。しかし、小学校から上の学年になると、男子の比率は増えていく。カンボジアでは、小学校段階から留年があるため、ドロップアウトする子どもも多い。女子にはもともと教育を受けさせることが必要だと思われていないため、進学する(させる)のをあきらめてしまう。また、家庭でも男子を優先的に学校に行かせようとする。

**(9) 保育者と教員養成**

保育者の意識は低くはなく、保育するのが楽しいと言っている園長もいる。公立幼稚園の先生は養成所を出ないとなれないので、その意味では全員が有資格者である。保育者の養成期間は一年間であり、養成所のカリキュラムをみる限りでは、様々な授業がある。一年間(実質は7ヶ月間)といっても、選挙などがあると、7ヶ月が短縮されて半年以下になる。2ヶ月は付属幼稚園で実習をする。付属幼稚園の実習中は、カリキュラムを勉強する。ドロップアウトが多い中、高校卒業した後養成所に入ってくるので、幼稚園の先生はいわゆるエリートである。

養成所のカリキュラムは立派に見えるが、幼児教育の実情に合っているわけではない。例えば、美術では影をいかに描くかを何時間もかけて教えているという。

幼稚園教諭養成所校長からの書面による質問紙への回答によれば、養成課程の問題は、養成のメソッドが古いこと、施設が十分でないこと、教員の能力がまちまちなことを指摘していた。エリート層がポルポト時代に被害にあっているのでは仕方ない。校長がいなかったのではシラバスについてはわからなかった。

#### (10) その他の幼稚園

公立幼稚園以外に、私立の幼稚園が増えている。なかでも、名門はインターナショナルスクールで1月700ドル～1000ドルほどかかる。ほとんどは外国人だが、政府高官、ホテル王の子息などのクメール人もいる。カリキュラムは英語教育やある程度の自由遊びなどもあるが、他にプレマセマティクス、コンピュータなどもある。

インターナショナルでの教育を目標にしながら、ほどほどに英語教育を行う私立幼稚園も多い。年間3ターム、1タームあたり5ドル程度の金額を払える家庭は、私立幼稚園に入れている。

幼稚園は就学の準備をするところと考えられている。就学準備といっても、色々な意味がある。例えば、カンボジアでは小学校の先生がすごくこわいので（こわくて学校に行けない子どももいる）、それに慣れさせるという意味もある。そこで重視されるのは識字である。また、英語が話せるといいことがあるのではという意識から、なるべく英語を教えて欲しいという要望も強い。

#### (11) 教育省

教員養成局長はかなり教育がある人で、農民の出（バタンバン出身）だが、Ph.D.を取得している。

幼児教育はいろいろなタイプがあるとのことで、今のカリキュラムは最低基準（ミニマムスタンダード）で改訂に取り組んでいるところとのことである。最初は、カリキュラムがあるかと聞いたら、NOと言われた。

幼児教育についてどのように考えているかと尋ねると、やはり、大事なものはbasic educationで、その前の幼児教育には予算がつかないという答えが返ってきた。教育予算のわずか7%しか、幼児教育にあてられていない。ただし、来年から幼稚園教諭の養成期間を2年にし、教員の質の向上が必要なので研修も行うとのことである。就学前教育が必要だという意識はあるので、就学前教育局を独立させたとのことであった。

日本などでは、幼児には直接的に教えるのではなく、

環境から学ぶことが大事だと考えられている。これについてどう思うかと尋ねたところ、とても大事だというもの、教育省の具体的な取り組みとしてどういうことがあるかという話にはならなかった。

#### (12) CYK支援の保育所

CYKが支援しているので、施設の状態はよい。農村部に展開しているので、子どもの多くは貧困家庭である。子どもが文字を読んだりはしていたが、公立幼稚園とくらべて、おしゃべりをしたりしている様子が見られほっとした。先生が話している間に遊んでいたりと、子どもにも活気があった。

保育者の意識は低くはなく、研修も行なっている。牛小屋で保護者にもヒアリングをしたところ、保育所に十分満足しているとの答えが返ってきた。食べ物を食べさせてくれる、昼寝をさせてくれる、歌を歌えるようになったなど、ご機嫌で帰ってくるのととてもありがたいとのことである。また、保育所に対しては就学への準備を期待しているという回答がめだった。

#### (13) ストウンミエンチャイごみ捨て場

プノンペンのごみが運ばれてくるごみ捨て場のひとつである。ごみ捨て場のまわりに簡易式ビニールハウスを建て住んでいる人たちがいる。しかし、ゴミのトラックも出入りして子どもが轢かれてしまったりして危険なので、フンセン首相が工場跡地を買い与えたという話だった。100世帯ほど住んでいるところを視察した。どこかのNGOが机といすをいれて識字教育を行なうための準備をしていた。

#### (14) 孤児院

100人以上の子どもがいたが、ほとんどの子どもが障害をもっていたり、HIV患者だった。カンボジアの子どもは西洋的な顔だからということもあるのか、健全な子どもならば入所して数ヶ月くらいで、フランス・カナダ・イギリスへ養子となっていく。特にフランスが多いとのことである。障害や病気を持っている子どもは養子としてもらえることが少ないため、障害や病気の子ばかりが残る。水頭症が多くて5人ほどいた。現在はHIVの検査に8ドルかかるので、検査をしていないという話だった。副院長はメディカルドクターなのだが、HIVでも3年くらい栄養を与えれば治ると言っていた。HIVかどうかはわからないで保育しており、職員の人は危険な状況に置かれているのではないかと考えられる。

政府系の施設であるため、職員の給料が低い。2・3ヶ月払われないこともある。ここはイタリアのNGOが支援している。毎月25日になると、そのNGOがお金を払ってくれるかどうか分かる。もしその時点で払ってもらえないということになると、職員は給料がもらえない。政府系の施設であっても、この程度の手当措置しかなくないことがよくわかる。

### 3. 今後の支援に向けて

教材・遊具については、いくつかクレヨンやハサミを持って帰ってきた。保育での空き箱の利用はない。廃物自体がないし、紙も貴重である。廃物拾いで生計を立てている人もいる。

日本からの支援に何を望むかについては、様々な意見が得られた。

JICAのSVは、日本の保育＝折り紙ではなく、伝統的な遊びの中にいいものがたくさんあり、歌についても日本のいい歌がたくさんあることを指摘した。また、現地の保育者と一緒に考えていく支援の重要性を指摘していた。「鳥の目の支援をしてほしい」という意見もあった。それぞれのNGOが虫の目で支援しているが、全体を見渡す目をもって（鳥瞰）支援することも重要だという話だった。

日本のNGO職員は、現地の事情をよく見て何が必要か丹念に調査をすることが必要であると指摘していた。彼女自身は衛生教育に狙いを定め、たとえば、野菜を地べたで切っていたが、それを机でやろうとか、トイレでおしっこしようとか、そういうことから支援を始めたとのことであった。農村にはトイレがないし、赤ちゃんもおむつをしていない。

教育省教員養成局長からは、支援はもちろんほしいという話が聞かれたが、どのような支援が必要かまでは言及しなかった。

ユネスコ職員からは、支援が問題を生むことをわかってほしいという意見が寄せられた。難民キャンプにいたときに、千枚の毛布が届いたことがあったが、その毛布の厚さや新しさがばらばらであり、そもそも数も足りず、どれを誰に渡すのが非常に問題となった経験を話してくれた。この経験から、支援をする際には事前の十分な調査が必要であること、長期的な視点をもつこと（最低5年）、現地で専門家を育てることの重要性を指摘していた。5年くらい付き合うことで、支援の相手が抱えている問題が理解でき、相談も可能

になる。そうしてこそ、真の援助と言えるという意見を頂いた。

## 4. その他

### ①幼稚園教諭の給料に対する予算について

予算自体が非常に少なく、ごくわずかなものをわけあっているという状態である。ヒアリング中にも、職員にバイトの電話がかかってくる。内職しないと暮らしていけない。小学校の先生も午後には有料の授業やドライバーをしたりする。

### ②日本人の親について

子どもはインターナショナルスクールにいてるので現地との接触はほとんどない。現地の子どものものはないので工夫する力がつくと考えている日本の親がいたが、実際はそのような様子は見られない。

### ③幼稚園の効果について

CYKの保育所で、小規模だがデータをとったところ、保育所出身者は、学校教育での定着率のよさを示す結果がでたという話であった。きちんとしたデータはないが、CYKの保育所については、そこをでた子どもたちの小学校での評判がよいという話だった。小学校ではCYKの保育所に行っていた子どもを集めたクラスと、そうでない子どもたちを集めたクラスという編成を行っているとのことである。CYKでも、もっとしっかりとした調査をしたいが、調査のための人員が足りないといっていた。

### ④公立幼稚園とCYK保育所の違い

公立幼稚園では、子どもは受身的で、あまり活発な様子ではなかった。それに対して、CYK保育所では子どもたちが生き生きとしていて、先生の絵本に触ろうとするなど、日本の幼児のようだった。識字教育をとってみても、CYKの保育所ではひとりひとりに石板をわたして、先生がみてまわったりするが、公立幼稚園では一斉に受け身でやっている。CYKでも保護者会や参観を企画するものの、働いていて生活が忙しいので、なかなか来てくれないという話だった。

### ⑤教員養成について

指導者が高校を卒業したばかりの人もいて、幼児

についてよくわかっていない。体育科目で理論的な話を延々としたりしているという状況である。お話をする際に劇をいれてみるなど、お金をかけなくてもできることもあるのではないか。